学ぶことで、つながる

学校・家庭・地域、それぞれの学びとともに、思いや願いを自分の言葉にして表現することによって、人と人とがつながります。

ハンセン病を学習して

久留米市内小学5年生の作文
<2019年度人権作品集より>

「どんな病気なんだろう。」わたしは、ハンセン病の名前をみて思いました。

みなさんは、ハンセン病のことを知っていますか。ハンセン病とは、治る病気です。感染力が弱く、「プロミン」という薬で治すことができます。

わたしは、4月に、ハンセン病のことについて学びました。まず、ハンセン病患者さんが受けた差別について調べました。どんな差別があったかというと、熊本県がハンセン病回復者の人たちを温泉ホテルに招待する計画をしたところ、ホテルが「ハンセン病回復者が泊まると、他の客が迷惑する。」と言って、宿泊を拒否したという差別です。さらに、その後に、その差別に対してホテル側にこうぎしたハンセン病回復者に、一般の人達から非難の電話や手紙、メールなどがたくさんきました。その中には、「お前たちは温泉に入るよりも、早く骨つぼに入れ。」とかかれたものもあったそうです。

しかし、たくさんの手紙の中にたった一人「私はハンセン病のことを正しく知りませんでした。私の考えが、まちがっていました。」という謝りの手紙をくれた方がいたそうです。わたしは、その事件のことを知って、みんな同じ人間なのに、宿泊を拒否されるのは、おかしいと思いました。また、謝りの手紙をくれた方は、自分のまちがいをみとめて謝ったのがいいと思いました。

(中略)

9月に実際に国立ハンセン病療養所菊池恵楓園に行きました。資料館で本物の差別の手紙をみました。手紙には、名前がほとんどのっていなくて、わたしは、とてもひきょうだと思いました。コンクリートの壁は、手をのばしてもとどかないくらいの高さがあり、その周りに木がたくさん植えられていて、少しも外が見えませんでした。へいの中にとじこめられているように感じました。

実際に現地に行き、患者さんたちが家に帰りたいと思っていたのがよく分かりました。ハンセン病のことを正しく知って、差別をなくすことができるといいです。そのために、へい水フェスタでこのことを発表し、多くの人にハンセン病のことを知ってもらおうと思います。

私が好き、あなたが好き、学校が好き、このまちが好き

学校・家庭・地域が協力し合い、教育力や愛情を出し合って、子どもたちを育みましょう。子どもたちの育ちを見守る人たちがつながりあうことがとても大事で、それができるのが「人権のまちづくり」です。

私たちは「人権のまちづくり」の一員です

子どもたちの豊かな学びと育ちをめざして、地域にあるさまざまな問題を一緒に考え、共に学び合いましょう。そして、誰もが安心して暮らせる、一人ひとりの笑顔があふれる人権のまちづくりをすすめていきましょう。

久留米市内中学2年生の作品
〈2020年度人権作品集より〉

久留米市内小学6年生の作品
〈2020年度人権作品集より〉